

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームに即した理念を職員全体で考え検討し、誰にでも分かる言葉、文体で作成している。	○	理念は職員全体で検討し、常に理念を掲げてケアを見直す姿勢を保つよう努める。来年度は地域密着型サービスの役割を反映させた表現にも取り組みたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの玄関、スタッフルーム、休憩室の目に入る場所に掲示し、日常的に意識できるようにしている。管理者は職員会議で理念の実践について話し浸透を図っている。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームだよりや家族へのお知らせで、理念や理念に基づいた実践を伝え、理解してもらえるよう取り組んでいる。	○	ホームだよりを充実させると共に、地域ケア会議の活動を通して地域への理念の浸透を図りたい。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	買物や通院などの外出先で地域住民から気軽に声掛けして頂いている。又、その都度ホームにも気軽に立ち寄って下さるようお願いしている。夕涼み会などホーム行事への婦人会、民生委員、地区総代、老人会、学校の参加協力を頂く等交流を図り、地域行事にも積極的に参加している。又、地域の小学校、中学校の職場体験を受け入れ認知症介護の普及に努め、担当者は地域ケア推進部会の委員として活動している。	○	地域で唯一のグループホームとしての自覚を持ち、認知症への理解を広める活動に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや活用方法を職員全体に説明している。改善シートを作成し、指摘事項の改善に取り組んでいる。	○	全職員に説明しているが、どの程度理解できているか疑問な面もあるので、継続して説明していきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、報告や情報交換をしている。意見を出して貰い、取り組みに役立っている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	住民福祉課及び担当者にホームだよりを手渡し、その都度情報交換をしている。行政のサービスやイベントがあれば随時担当者と連絡を取り、サービスの向上に役立っている。また、行政が管轄する研修の受講について、現状を理解して貰い協力を得ている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で制度の理解に努め、職員会議等で伝えているが、家族や利用者に対する情報提供や支援は充分ではない。	○	勉強会を設け全職員の理解を深め、利用者や家族に情報提供したい。必要に応じて地域包括支援センターへの相談を援助していきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は研修に参加して虐待の防止について学び、職員会議で報告している。虐待はしない意識を強く持ちケアに当たっているが、無意識に言葉による虐待をしていないか不安も感じている。	○	高齢者虐待防止法について学び、虐待を発見した場合の対応についてマニュアルの作成に取り組みたい。また、倫理綱領及び行動規範の作成にも取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を得るように努めている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見を出しやすい雰囲気作りや働きかけは行っている。また出された意見について話し合い、対応するようにしている。	○	意見の反映を心掛けているが、利用者が遠慮や我慢をしていることも考えられるので、職員一人ひとりの対応の見直しや、家族からの聞き取りも行なっていきたい。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは月1回以上、来設時に報告している。必要に応じて電話及び訪問して報告または相談をしている。金銭管理状況は毎月領収証を添付し報告している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見を出しやすい雰囲気づくりや働きかけは行なっている。また、内外部の苦情受付窓口を明示している。	○	ホーム行事に合わせて家族懇談会を開催し介護や運営に対する意見を聞き反映させたい。（12月に予定している）
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議、ユニット会議で話し合い検討している。法人の全体会議が月1回あり、職員の意見を提案できる。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の要望には可能な限り対応できるよう人員調整や勤務調整をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は利用者への影響を考慮し最小限にしている。離職もなく馴染みの職員による支援が受けられる状況にある。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームのマニュアルに即した内部研修、各自年1回以上の外部研修を計画している。職員は個々に合わせた内容の研修を受講し、報告書や資料の回覧、全体会議での報告をしている。内部研修は定期的には行なっていない。	○	内部研修を定期的実施し、介護技術の向上を目指す。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内他ホームとの相互訪問を行なっている。他施設の取り組みや問題について情報交換している。地域の居宅支援事業所との情報交換はしているが、同業者との交流は少ない。	○	地域の他ホーム、同業者との相互訪問、交流により、サービスの質の向上に繋げたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みやストレスはその都度聞くようにしている。また、仕事の態度等から疲労やストレスが感じられた時は声掛けしている。適時ストレス解消の為親睦会を設けている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり、運営者は労基法を守るよう努め、有給休暇が取りやすいよう配慮している。資格手当の支給、資格取得の奨励など向上心がもてるよう働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、依頼があった時は直接話を聞く機会を設け、利用者や家族のニーズを把握するよう努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを見極め、必要があれば地域包括支援センターや居宅支援事業所と連絡を取り、他のサービスの紹介も行っている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者には、家族も含めホームへの事前の訪問、見学を勧めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者にはそれぞれ出来る部分のお手伝いをお願いし、食器拭き、掃除、洗濯物畳み等、日常生活の習慣として実施されている。	○	職員は利用者と一緒に活動する時間を多く持ち、利用者が自然な形で能力を発揮できるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には利用者のホームでの様子を伝えると共に、アセスメントに協力して頂き、ケアプランを共有している。必要に応じて受診への協力をお願いし、相互理解の下に健康管理している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係には配慮し、家族がホームに来やすいよう働きかけをしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の要望があれば馴染みの人や場所に出掛けられるよう連絡や送迎を援助し、関係が継続できるよう可能な限り努めている。	○	自発的に要望できない利用者に対しては、働きかけにより本人の思いを理解し、馴染みの関係が途切れないよう援助していきたい。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームでの共同生活が気兼ねなく安心してできるよう、利用者同士の関係づくりには特に配慮し、全体を把握している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまで3名の退所者がいるが、医療的な問題があり地域を離れている為、付き合いが途切れた形になっている。	○	今後、契約終了があった場合は、関係を断ち切らない付き合いを意識して行っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者の傍に居て会話し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者からも情報収集し参考にしながら、本人本位に検討している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当を中心にアセスメントを行っているが、一部の職員しか把握していない部分もある。	○ 全職員が利用者の経歴等を把握できるようカンファレンスやユニット会議で伝えていく。また、ケース記録やケアプランにきちんと目を通すことを習慣にしていく。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムや心身状態の把握に努め、職員間の申し送りを密にしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位であることを確認し、利用者が何をしたいかを中心にケアのあり方を職員間で話し合い作成している。その際、家族の考えや要望を反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間を明示しており、状況の変化に応じて話し合ったり、申し送りにて対応を変更しているが、新たな計画の作成が遅れることがある。	○ 適時見直しをして介護計画に基づいたケアが行われるよう習慣づけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭での情報の共有はあっても、記録に反映されていない部分もある。	○	個人記録の記入が明確にできるよう取り組みたい。実践や介護計画の見直しに活かせる記録の仕方を検討していきたい。
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特に自主サービスの開発としては取り組んでいないが、本人や家族の要望には、利便性に配慮し、職員の業務を限定せず柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、婦人会、ボランティアのホーム行事への参加や慰問が実施されている。また駐在所、消防署にも協力を呼びかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所外のケアマネジャーとの連携は入退去時のみ行われている。理美容は業者の訪問サービスを利用。行政の健康診断は活用されている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは随時情報交換を行い特に入所判定会議や入退去時の相談は密に行われている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診初め緊急時も適宜受診し、家族の了承の下、必要な治療を受けている。また必要に応じて家族と医療機関との話し合いを行っている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医が身近に居ない為、主治医との相談で対応している。、	○	専門医受診が必要であれば、対応していきたい。
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職は配置されており、適宜利用者の健康管理等について各職員に説明している。また、地域の看護師、保健士とは気軽に相談できる関係を築いている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院経過や早期退院に向けた医療機関との話し合いは行われている。また、利用者の状態に応じて家族も含め話し合う場を設けている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な健康管理や急変時の対応については家族や医療機関と話し合っている。重度化した場合の対応に係る指針はあるが、終末期の対応について方針の共有が出来ていない。	○	ターミナルケアの研修を重ね、重度化や終末期の対応について方針を共有して、今後の変化に備えたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化している利用者はおり、家族や医師との話し合いが行われているが、終末期の支援については十分な準備が出来ていない。	○	重度化している利用者の今後の変化に備えて、対応を検討し「できること、できないこと」を見極めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や遠方への転居による退去であった為、情報提供書による情報交換に終わっている。	○	今後は近隣の特養等への住み替えも考えられ、ダメージの防止には丁寧に取り組んでいきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声掛けや対応について会議や研修で学習する機会もあり、職員それぞれが理解し対応している。個人情報には鍵をかけて保管している。	○	プライバシーの確保については研修を通じて全員で繰り返し学んでいきたい。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が自分の思いを表現できるよう働きかけたり、自己決定できるよう対応している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた柔軟な支援を大事にしているが、時に職員側の業務が優先していることがある。	○	優先すべきは何かを職員間で再確認し、利用者がどうしたいのかを一番に考える支援をしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みで衣類を選んだり、購入して貰っている。また、理美容も本人が希望する店を利用したり、出張して貰っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のサポートをしながら、出来るだけ職員も一緒に食べるよう心掛けているが、朝夕は利用者の対応に追われ一緒に食卓につけないことがある。	○	準備や片付けも、徐々に一緒に行っているが、利用者参加を更に充実させていきたい。利用者と一緒に食卓に座るよう工夫したい。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	自発的に希望のあった利用者については飲み物やおやつを本人の望むものになっている。また、買物デイで好きなおやつを購入している。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンは記録、把握し排泄の失敗が少なくなるよう支援している。オムツ使用についての定期的見直しがなされないことがある。	○	おむつの使用を減らすよう、定期的に見直しながら取り組んでいきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安に体調や本人の希望を踏まえて対応しているが、職員の都合が優先される面もある。入浴できない場合は清拭、足浴で清潔を保持している。	○	できるだけ利用者の希望に添うよう工夫し、入浴を楽しめる支援をしていきたい。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。寝付けない場合は付き添ったり会話、飲み物を提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や力量に合った役割を見つけそれぞれやって貰っている。ぬり絵や折り紙、音楽など、好きな利用者が随時楽しめるよう準備している。気分転換ができるよう散歩や日光浴の支援をしている。	○	利用者の楽しみを知り、支援する取り組みを積極的に行い、張り合いや喜びのある生活につなげたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量や希望に応じて金銭管理が行えるよう支援している。可能な場合には買物などの支払いをして貰っている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月2回買物デイを設け、随時気晴らしのドライブも行っている。利用者から希望があれば、出来るだけ外出できるよう支援し、親戚や友人宅に出掛けることもある。日常的に、天気の良い日には戸外に出て、散歩、日光浴、夕涼みを楽しんでいる。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の行きたい場所は把握しているが状況的に困難な場合もある。可能な限り支援している。	○	家族と外出できる機会があればよいと思うので家族と連携をとって実現させたい。
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話を使用する時は気兼ねなく活用できるよう配慮し、手紙の投函等の支援をしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人がいつでも気軽に訪問できるよう、柔軟な対応を行い、一緒に過ごしやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、家族等の宿泊の希望に応じる体制も整っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという姿勢でケアを提供している。やむを得ず身体拘束を行う場合は家族に説明し同意を得ている。（夜間のベッド柵使用のケースあり）	○	身体拘束しないケアを引き続き学習し、拘束の解除に努める。やむを得ず拘束する場合の約束事、手順を明確にしていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしておらず自由に出入りできるようになっている。また、見守りを徹底し外出傾向を察知した場合は付き添っている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の様子は昼夜ともに把握できるようにし、安全には配慮している。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤、消毒液、洗剤、刃物類の保管には注意を払い危険防止をしている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態に応じた事故防止を職員間で検討している。ヒヤリハット報告書については様式が整備され全職員に周知されている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルの作成はしている。応急手当や初期対応の勉強会はしているが、定期的ではない。	○	全職員が応急手当や救急救命の訓練を定期的に行うようにしたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回（昼、夜想定）で行っている。消防署の協力を得て、職員と利用者が一緒に訓練している。	○	地震想定のマニュアルづくり、訓練も行っていきたい。近隣の消防団や地区への働きかけも行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者ごとにリスクについて、職員間で把握し家族に説明している。また、利用者の状況に応じて見直しをしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の通常の状態を把握し、早期に体調の変化に気付くよう努め、記録をとり職員間で情報を共有している。必要時は医療機関に相談している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容については利用者の個人ファイルに綴っており、いつでも確認できる。変更時は申し送りをしている。誤薬がないよう職員2名で服薬確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解している。予防は飲食物や運動の働きかけをし、個々人に合わせて下剤の使用はしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性は理解している。食後口腔ケアの促しはするが、十分な支援はできていない。	○	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを実施していく。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、食事量は記録している。十分な栄養摂取ができるよう食形態を工夫している。また、体重測定、健康診断により栄養状態把握の参考にしている。保健士より栄養改善のアドバイスを受けて、メニューの工夫に努めた。	○	定期的に栄養士の指導助言を受ける体制を作り、栄養バランスのとれた献立にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防のマニュアルを作成しているが、定期的な学習はなされていない。	○	定期的に学習し、確実に実行できるようにしたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の整理日、保清、台所、まな板、包丁の消毒などの具体的なマニュアルがあり周知されている。手指洗浄、消毒、検食は実施されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの前は畑、花壇、玄関前はプランター、ベンチ、傘立てなどで威圧感のない雰囲気になっている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁のカレンダーも家庭のあるような物にしている。また、音楽の音量はホールの状況に合わせて調節し、騒がしくないようにしている。室内の明るさも照明やカーテンで適宜調整している。	○	利用者と共に空間づくりをしていきたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がそれぞれ落ち着ける場所を確保している。食卓テーブルやソファの位置を変えるなどして、思い思いに過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	利用者によっては馴染みの物を置いているが、全 体的にはすっきりし過ぎている。家族に対して継 続的な働きかけが行われていない。	○	家族に継続的に働きかけながら工夫していき たい。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	ホール内の温度、湿度を確認し適宜温度調節、換 気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	要所にてすりを設置している。必要に応じて車椅 子を使用できるよう用意している。	○	洗面台は高すぎる為改修工事予定。スロープへの てすり取り付け等、更に改善に努めたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	それぞれの居室に個々にのれんを掛けたり、ドア に利用者が自分で製作した作品を貼って、部屋間 違いに対応している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	前庭にはベンチを置き、日光浴や散歩のコースに なっている。廊下はさい荘日記（写真展示）の コーナーとし利用者や訪問者が楽しめるよう になっている。畑を作り、生育や収穫を楽しんで いる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

平成17年11月に開設した、村で初めてのホームです。スタッフも経験が浅く、当初は「家に帰りたい!」という利用者の思いに四苦八苦しながら、”居心地の良いホームにしたい””自分らしく安心して暮らして欲しい”という思いを強く持ち、そこから自分達の理念をつくりあげました。ホームの様子を伝える『さい荘だより』も軌道に乗り、家族や地域の方々との架け橋となっています。家族や馴染みのある地域の方々との繋がりを保つことに力を入れ、地域の行事に参加したり、馴染みの人に見えるよう支援しています。また、ホーム行事への参加呼びかけやボランティアの受け入れ等、地域の方々に来て頂くよう努め、明るく開かれたホームを目指しています。自慢は広い畑です。今年はジャガイモと夕顔がよく採れ、畑仕事を楽しんだり、季節を感じて思い出話にも花が咲きました。これまでの経験や趣味を活かして、それぞれが自分の力を発揮できるよう、環境の整備や支援にも力を入れていきたいと考えています。まだまだ足りないことばかりですが、人生の大先輩である利用者さんに日々学び、外部評価、運営推進会議等の意見やアドバイスには真摯に耳を傾けて、改善に取り組んでいます。